

総合資源エネルギー調査会 電力・ガス事業分科会 原子力小委員会 放射性廃棄物ワーキンググループ（第24回）-議事要旨

日時：平成28年1月27日（水曜日）9時30分～11時30分

場所：経済産業省本館17階国際会議室

出席者

ワーキンググループ委員

増田委員長、新野委員、伊藤委員、崎田委員、寿楽委員、高橋委員（※「高」は「はしごだか」）、徳永委員（※「徳」は、「心」の上に「一」が入る）、朽山委員、伴委員、山崎委員、吉田委員

経済産業省

吉野エネルギー政策統括調整官、小林放射性廃棄物対策課長

オブザーバー

近藤原子力発電環境整備機構理事長、宮澤原子力発電環境整備機構理事地域交流統括、廣江電気事業連合会副会長兼最終処分推進本部長

議題

今後の取組及びWGの進め方について

議事要旨

事務局（小林放射性廃棄物対策課長）から、資料1について説明。

近藤原子力発電環境整備機構理事長、宮澤原子力発電環境整備機構理事地域交流統括から、資料2について説明。

委員からの御意見

少人数ワークショップでは、閣僚会議で示した科学的有望地の提示に向けて環境整備に取り組むなどの方針が説明されたが、地域、自治体やマスコミなどがこの問題を考えるきっかけとなるようにこの機会を生かしてほしいというような前向きな意見が多かった。

科学的有望地の提示後に国が一方的に決めていくというような誤解を与えないように丁寧に情報提供していくことが大事。

全国的に最終処分の問題に取り組むことが大事であり、科学的有望地以外の地域にも関心を持っていただくような体制を整備していくことが重要。

委員からの御意見

最終処分は、将来の国民が安心して生活できるような環境を整えるための事業であることが伝えられると前向きに考えてもらえるのではないかと。

国民に理解を求めていく上では、社会問題の解決に向けて、科学技術の知識を活用しているというような全体的な構造がわかるようにすることが重要。

委員からの御意見

科学的有望地で不適地とされた地域でも対話をしていくというような取組を考えていくことが重要。

収容できる土地が確保できるかなどの社会科学要件を、立地の選定に即して、どの段階でどういう形でこの問題が重要になるのかを考えていく必要がある。

NUMOが進めていく対話活動に関する計画を具体的な形で示していただくとうい。

委員からの御意見

一般の方々も含めてわかりやすく説明し、質問いただいたことに丁寧に回答するというサイクルは、これまでの努力により回ってきていると思う。

科学的有望地の提示後に、国民や地域の声を踏まえてプロセスを具体化としているが、このプロセスをどのように具体化していくかについて今後検討が必要。

科学的有望地における社会科学的要件の検討は、NUMOが事業をどう進めていくかを社会に示していく中で、どのように考慮に入れていくかというようなやり方もあると思う。

委員からの御意見

科学的有望地が提示された後のプロセスについても今後検討を進めていく必要がある。有望地提示後においては、地域支援のあり方を含めてどのように理解を得るか、処分事業をどういうふうにプロセスとして進めていくか、などの具体的な事項を対話で扱っていく必要があると思う。NUMOには、必要となるスキル・知識、専門家の協力を得る体制、進め方の体制など今後具体的に示していただきたい。

委員からの御意見

地域対話においては、処分の問題のみならずエネルギーの重要性など併せて示すことが理解を得る上で重要。

事務局（小林放射性廃棄物対策課長）

科学的有望地の提示後に国が一方向的に決めていくというような誤解を与えないように、地域の有望地提示までの間にしっかりと伝えていきたい。

科学的有望地の提示後の対話の具体化など今後議論をしていきたい。

近藤原子力発電環境整備機構理事長

これからの取組におけるNUMOの体制や説明資料などは、今後機会を得て説明させていただきたい。

日本に存在する多くの自治体に対して、リソースをどのように使い、合意性を追及していくかというのは今後の議論。

委員からの御意見

地方の方の少数の意見も大事にしながら集約し、納得を得ていくか考えていくことは重要。

自分事として考える上で、リスク情報含め、どのような情報のあり方が妥当か議論が重要となる。

科学的有望地の提示においては、全体像の工程や要件などの大枠が提示されることが、憶測などが走らないようにする上で重要。

日本の場合、重要なものを決定する上で女性の参画率がまだ低いと思うので、決定の中に女性を取り込んでいくという姿勢を持っていただけるとありがたい。

委員からの御意見

科学的有望地について、地球科学的観点からのマッピングのスケール感と地域対話のスケールがまだ一致していない。有望地提示後、どのように効率的で効果的な対話を進めていくかというのを検討していくことが重要。

委員からの御意見

今後、科学的有望地の提示に際し、冷静に受け止められる環境を整備としているが、その根拠など今後、議論していく必要がある。

今後、シンポジウムなど様々な箇所でも御意見をいただくとと思うが、頂いた御意見に対するフィードバックしていく対応が必要。

規制について、ある程度選定が進み、設計が定まり、それに基づいて安全審査基準が作られていくことを危惧。あらかじめ達成すべき目標などは原子力規制委員会の中で議論していただく必要があると思う。

NUMOは地質環境を総合的に評価すると言っているが、欠格条項に対する基準を示す必要がある。

委員からの御意見

科学的有望地以外の地域に対して、どういう対話をしていくかは議論。

地元へのメリットや雇用の継続など地域の発展を考え、地域は事業に関わっていくと思うが、次の段階に進まないことになった場合、ということが考えられるのかが先に見えていると地域としてもこの問題を考えやすいと思う。

事務局（小林放射性廃棄物対策課長）

国と地方自治体の情報交換が大事と認識しており、昨年来、各都道府県、市町村、知事会などと密にさせていただいているが、科学的有望地の提示に向けては一層重要。

対話の中で何をどうフィードバックしていくかは、これまでも基本方針や当ワーキンググループで整理しているところではあるが、今後、地域対話や社会科学的観点からの検討など御意見を聞きながら検討を進めていきたい。

原子力規制委員会については、基本方針において段階的な関与が枠組みとしては決まっており、今後の具体化については今後検討となると思う。

近藤原子力発電環境整備機構理事長

文献調査の段階については、安全の判断基準を公表しているが、文献調査以降の段階については鋭意検討を進めていきたい。

広報については、国民の感謝の気持ちが背にあればこそとも考えており、科学的有望地の内外問わず説明が重要と思う。

委員からの御意見

自分事として考えていただくことは重要と思うが、自分がそこに加わると政策や事業などに何かいい方向に変わったかという有効性感覚が参加いただく上で重要。

増田委員長

科学的有望地の提示後の議論など委員から御意見いただいております、次回以降検討を進めていきたい。

以上

文責：事務局（資源エネルギー庁放射性廃棄物対策課）

関連リンク

[総合資源エネルギー調査会 電力・ガス事業分科会 原子力小委員会 放射性廃棄物ワーキンググループの開催状況](#)

[動画1（YouTubeへリンクします。）](#) 

[動画2（YouTubeへリンクします。）](#) 

お問合せ先

資源エネルギー庁 電力・ガス事業部 放射性廃棄物対策課

最終更新日：2016年3月10日